

【関節超音波検査について】

関節リウマチは、関節内の滑膜の炎症を主座とする自己免疫疾患です。滑膜炎による多関節の腫脹や疼痛の出現に始まり、関節破壊へ進行し、関節可動域の制限、そして日常生活動作の低下をきたします。

関節超音波検査は、関節リウマチの滑膜炎を簡便に評価する方法として普及してきています。(当院では2010年6月に導入)

① 関節リウマチの早期診断、治療効果判定に役立ちます。

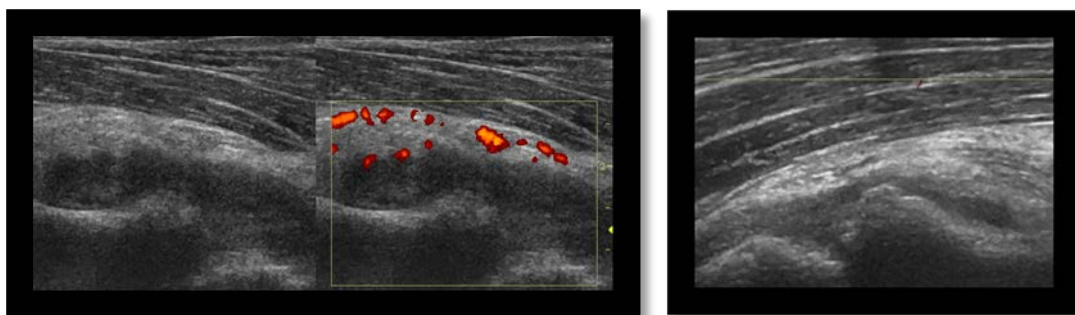
→非典型例(血液検査で異常を認めない等)では触診や血液検査などの従来の検査だけでは診断が難しいことも多いですが関節超音波検査で滑膜炎の有無を精査することで確かな早期の診断が可能です。

→血液検査や自覚症状では寛解状態でも骨破壊が進行する例や、逆に血液検査で炎症反応が陽性でも骨破壊が進まない例があり、関節超音波検査で滑膜炎の有無を調べることで診療の役に立ちます。

② 関節リウマチ以外の疾患でも役立ちます。

→脊椎関節炎による付着部炎の有無や、リウマチ性多発筋痛症の診断の補助など

(関節超音波検査の一例：治療前後)



活動性滑膜炎(滑膜肥厚・滑液貯留)を認める → 治療により改善を認める

<関節超音波検査の実際>

座位あるいは臥位で検査します。観察する関節にゼリーを塗って、プローブをあてて観察するだけです。リアルタイムに疼痛部位を観察できます。

検査の際は観察する関節を出しやすい(着脱しやすい)身なりでお越しください。

当院ではリウマチ科医師7名+検査技師1名が月曜日、木曜日、金曜日の週3回行っています。検査時間は30分~1時間/件程度です。

※外来でもポータブルエコーを導入し、一部の関節に対して評価しています。



<関節超音波検査のメリット・デメリット>

●メリット

MRI 検査よりも安価で、多数の関節を評価できる

被爆や侵襲がない

疼痛部位をリアルタイムに観察できる

医師と話をしながら検査ができるので自分の病態を理解しやすい

●デメリット

検者によってバラつきがしやすい

大関節（股関節、肩関節など）は炎症のシグナルを拾いにくい

→当院では日本リウマチ学会登録ソノグラファー4名が在籍しており、研修や講習会でスキル維持しています。

欧米では「関節エコーはリウマチ医の聴診器」とも言われています。

さまざまな検査や診察を通して丁寧な診断・診察を心がけています。

ご興味がある方、ご質問がある方、担当医師や看護師にお問い合わせください。